



技術史教育

第112号

2017.10.31

Education for History of Technology

第112号 目次

- 日本技術史教育学会2017年度全国大会の開催にあたって……………小野寺英輝(1)
 日本技術史教育学会2017年度全国大会開催案内……………小野寺英輝(2)
 機械設計・機会技術史国際会議開催報告2017……………白井 一(3)
 関西支部行事案内・会告・編集後記……………(4)

【全国大会】

日本技術史教育学会2017年度 大会・研究発表講演会の開催にあたって



2017年度全国大会実行委員会

実行委員長 小野寺英輝 (岩手大)

日本技術史教育学会の2017年度大会・研究発表講演会をこの12月9日に、岩手大学が主管校となり、岩手県公会堂において開催することになりました。岩手で初の開催に皆様をお迎えできることを嬉しく思っております。

会場のある岩手県盛岡市は、東京から北に約530km。これは、東京・大阪間(550km)とほぼ同一の距離です(ちなみに東京・仙台間は東京・名古屋間とほぼ同じ距離)。到達時間は国内最速の時速320kmの新幹線「はやぶさ」で最短2時間12分。大宮からですと1時間48分と、時間距離は非常に短くなっております。航空機利用ですといわて花巻空港へ名古屋(小牧)、大阪、福岡、札幌からの便がありますが、便数があまり多いとは言えず、盛岡までのシャトルバスも1時間程度を要しますので、隣県の仙台空港から空港アクセス鉄道線で仙台へ、そこから新幹線乗り継ぎという方法もあります。乗り継ぎが良ければ1時間ほどで盛岡に到着できます。

会場となる岩手県公会堂へは、盛岡駅からバスで10分ほど。詳しくは別記いたしますが、バスの便は非常によく、バス時刻をあまり気にせずアクセスが可能です。また、街の中心部へも徒歩圏内になります。

東北本線(当時は私鉄の日本鉄道)が建設された当時(1890年)の技術では、盛岡市街地付近での北上川の渡渉が困難であり、盛岡駅は市街地から北上川を挟んだ西側に位置しています。そのため、駅周辺に商店はあまり多くなく、実際の繁華街は橋(開運橋;下路式単純ランガートラス)を渡った旧盛岡城周辺に広がっています。そして、その中央部に平成18(2006)年、登録有形文化財に認定された岩手県公会堂は位置しています。

昭和天皇のご成婚を記念し大正14(1925)年始まったこの建設工事は、昭和2(1927)年竣工しました。設計者は、早稲田大学大隈記念講堂(昭和2年)などを手掛けた佐藤功一。そして、彼の代表作の一つである、日比谷公会堂に先立つこと2年で完成した岩手県公会堂は、

規模こそ小さいものの、スクラッチタイル張りの外観や塔屋の姿は驚くほど類似しています。

一方、正面入口の2階には昭和3年(1928)陸軍大演習の折に「大本営」として利用された貴賓室があります。隣接する現特別室は御座所として天皇のご宿泊場所となりました。そして竣工から90年を経た現在、公会堂内部には、漆喰のレリーフや曲線を描く屋内バルコニーなど。アール・デコ様式の装飾が残されています。

公会堂周辺には、旧盛岡銀行(1911年辰野・葛西設計事務所、重要文化財)、旧第九十銀行(1910年)、旧盛岡貯蓄銀行(1927年)、をはじめとした歴史的建造物群が立ち並んでいます。またこの建造物群に隣接して、我が国の鉄産業の父とも言われる大島高任が築造した橋野高炉(世界遺産構成資産)で技術指導を行った忠兵衛を祖とする鈴木主膳堂をはじめ、伝統ある南部鉄器の工房も軒を並べています。まさに、盛岡の技術の歴史を体現した場所ともいえるでしょう。これらは見学会の折りに巡見致しますので、ぜひ翌日の見学会にも多数参加いただけますようご案内いたします。

最後に、主管校である岩手大学をご紹介します。その歴史は明治35(1902)年に創設された盛岡高等農林学校(現農学部)に始まります。ここでは、童話作家宮澤賢治が学び、その当時の学校本館は重要文化財となって、現在は農業教育資料館として活用されています。また、理工学部は昭和14(1939)年に他の全国6校とともに創設された盛岡高等工業学校に端を発します。それぞれに関わる事物が学内には散在していますが、それらの案内冊子は正門わきの守衛所で入手することができます。公会堂からはバスで10分ほど。時間がございましたらお立ち寄りいただければ幸いです。

また、講演会の後には、公会堂近隣にて交流会を開催いたします。それでは、初冬の北の街、盛岡にて多方面からの皆様のおいでを心からお待ちしております。

日本技術史教育学会 2017 年度

全国大会 (盛岡) 開催案内

2017年度全国大会実行委員会 実行委員長

小野寺英輝 (岩手大)

日時:2017年12月9日(土), 9:00~17:30
場所:岩手県公会堂(岩手県盛岡市内丸11-2
TEL019-623-4681)
主催:日本技術史教育学会
共催:日本メカニズムアーツ研究会

【 プ ロ グ ラ ム 】

受付9:00より

開会・実行委員長挨拶 9:20

【研究発表講演(1)技術史・技術文化史】

9:30~10:36

- (1)9:30~9:52「久保田豊と水豊ダム報道」
武長玄次郎(木更津高専)
- (2)9:52~10:14「艦上偵察機『彩雲』に見る中島飛行機の開発力」
岡崎昭仁(神奈川工科大学)
- (3)10:14~10:36「淡路島のため池・農業用水開発の歴史と考察—地形、気候との関連—」
南正晴(元三菱重工)

【休憩】 10:36~10:45

【研究発表講演(2)科学史・工学史】

10:45~12:13

- (4)10:45~11:07「技術の系譜から見た新幹線電車」
真保光男(JREFM)
- (5)11:07~11:29「Newton力学で考える『ひてん-like』月探査船—『ひてん』に始まる『ひてん風』低エネルギー軌道遷移と不変多様体による軌道制御」
田中道彦(信州大学)
- (6)11:29~11:51「日本における大規模風力発電導入の歴史」○牛山泉(足利工業大学)・飯野光政(足利工業大学)
- (7)11:51~12:13「モンゴル国の社会的変遷に伴う電熱供給の歴史~20世紀以降の変遷について」
○出井努(足利工業大学)、エルデネ・アディヤスレン(モンゴル科学技術大学)、牛山泉(足利工業大学)

【昼食休憩】 12:13~13:10

【特別講演】 13:10~14:10

演題:小岩井農場の歴史と遺産

講師:野沢裕美(小岩井農場資料館館長)

【休憩】 14:10~14:20

【研究発表講演(3)技術史・技術文化史II】

14:20~15:48

- (8)14:20~14:42「伯楽ばさみ小考」
佐々木堯(関西大学)
- (9)14:42~15:04「臥雲辰致とがら紡に関する文献目録に見る年代的特徴」
天野武弘(愛知大学)

- (10)15:04~15:26「第五回内国勸業博覧会と内田百閒」
山館順(サレジオ高専)
- (11)15:26~15:48「忌みの事実を如何に捉え理解し、後世に伝えるか—いま花岡事件から学ばなければならないこと」○佐藤建吉(22世紀デザインリエゾン)、松浦真理(アート&スペース)

【休憩】 15:48~15:55

【研究発表講演(4)技術教育・技術教育史学】

15:55~17:23

- (12)15:55~16:17「伊達地方の養蚕業における『蚕当計』の意義」
星 朗(東北学院大学)
- (13)16:17~16:39「東京荒川区最後の造船所」
吉田喜一(元都立産業技術高専)
- (14)16:39~17:01「工業高校の実習関係科目の動向と課題—1976年~2015年調査の結果を踏まえて」
長谷川雅康(東京学芸大学)
- (15)17:01~17:23「プータンと日本の技術交流小史(第6号) Serzhong職業訓練学校の改修支援に係る技術史的な一考察」
白井一(NPO法人国際建設機械専門家協議会)

【懇親会】 18:00~20:00

東屋大手先店(講演会会場から徒歩3分程度)

そば会席をお楽しみください。

【見学会】

平成29年12月10日(日)9:00~16:30

盛岡歴史文化館→近代建物群→南部鉄器工房→小岩井農場

【参加費】

研究発表講演会参加登録費 3000円

懇親会費 5000円

見学会参加費 6000円(保険料, 入場料, 昼食込)

昼食は、近くに飲食店がありますのでそちらをご利用ください。当日昼食マップを用意いたします。

【参加申込方法および期日】 12月1日(金)17時必着 ニュースターに同封の参加申込用紙に記入し、下記まで郵送またはFAXでお申込みください。参加者名簿作成その他諸手続きのため、期日厳守に御協力ください。

【申込先】 〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-5 小安ビル6F (株)プラスワン気付 日本技術史教育学会 2017年度全国大会実行委員会 FAX:03-3835-2494

【実行委員会】 小野寺英輝(岩手大学)、星朗(東北学院大学)、鈴木夏夫(玉川大学)、山館順(サレジオ高専)、武長玄次郎(木更津高専)

2017第10回日中機械設計・機械技術史国際会議 (ICMDHMT-2017) の報告

国際会議実行委員長 白井 一

1. 実行委員会規約制定による実務型で開催

今回は、第10回日中国際会議という節目でもあり、実行委員会による組織的な国際会議開催を試みました。試金石的な試みでしたが、過去に参加された日本側と北京航空航天大学側の参加者から、これまでと違った賞賛が得られました。

この様な経過で、日本技術史教育学会と北京航空航天大学主催による2017第10回日中機械設計・機械技術史国際会議、The 10th Japan-China International Conference on Mechanical Design and History of Mechanical Technology 2017 (ICMDHMT-2017)が2017年8月28日と29日の2日間、中国の首都北京の北京航空航天大学の会議室を会場として開催されました。この国際会議には日本から19名の参加があり、8月27日の午後、大阪グループと、東京グループが北京国際空港で合流し宿泊先の北京航空航天大学前の北京航空航天大学の担当者が待機している北京唯実酒店(Vision Hotel Beijing)に移動して登録作業を開始しました。到着の夜から歓迎レセプションがあり、第10回目となる国際会議のこれまでの日中両国の関係者が親しく旧交を温めるといふ、和やかな国際会議前夜祭が行われました。

2. 開会式、第一日発表会

これまでの日中国際会議開催を強力に推進頂いた名誉実行委員長の郭可謙先生、中国側実行委員長趙翌北京航空航天大学教授はじめ、日本側、中国側から多数の関係者の御参加を得て、第10回国際会議の開会式が8月28日の朝から行われました。これらの詳細は別途日中国際会議特集ニュースレターを準備して御報告の予定です。

第一日は、第一分会場、機械技術史グループの7本の研究論文が発表され、第二分会場、機械設計の理論と応用グループの8本の研究論文が発表されました。夜は開催記念の晩餐会が行われました。(写真参照)

第一日目の日本、中国双方の研究発表の第1会場では、発表会会場主席を務めた高峰先生が通訳をも兼ね、極めて丁寧に両国に通訳した関係で1時間以上予定時間をオーバーしましたが、双方が研究発表内容を十分理解できたという成果がありました。この様子を見た二日目の日本側の発表者は改めてご自分の発表内容をホテルの自室で推敲するという熱の入れようもあり、極めて充実した発表会でした。

3. 第二日発表会と閉会セレモニー

第二日目は、第一分会場、機械技術史グループの7本の研究論文が発表され、第二分会場、機械設計の理論と応用グループ8本の研究論文が発表されました。その後は航空博物館等の技術見学の後、夜は閉会セレモニーが行われました。

以上の通り、第10回日中国際会議の全日程が無事予定通り終了しました

4. 総括と次回開催に向けた課題

第10回日中機械設計・機械技術史国際会議は、8月28-29日に北京航空航天大学で開催する計画で

したが、実行委員長拝命は6月の総会で委嘱され、実施までの期間は2.5ヶ月という制約がありました。2014年、プータンで開催した国際会議では、準備期間は十分ありましたが、意思決定機関と責任者が不明確で、実行委員会は組織として機能しませんでした。これらの経験を踏まえ、今回は国際会議実行委員会規約を制定し、意思決定を速やかに行える体制にしました。今後は理事会の承認を得た国際会議実行委員会規約に則り、常設実行委員会が長期計画の基に、今回同様組織的に運営できる体制が整いました。

組織化、規約化、公明性と独立性を図った運営の結果、北京航空航天大学の熱烈歓迎に対し、実行委員会、参加者の大半が満足という意見でした。

(1) 中国側は日本での次回の国際会議を望んでいたため、第10回国際会議での中国側からの歓迎の返礼としての日本での国際会議開催は望ましい。実行委員会と、日本側の参加者から2019年に日本での国際会議開催を望む声があった。

(2) 次回国際会議は大阪で大会を開催し、視察旅行は東京等も検討する。理事会及び、関西支部に今後のフォローを検討願いたい。

(3) 国際会議の発表方法についての以下の様な提案があった。

通訳を入れた発表では、「日本語発表10分+通訳・質疑10分+移行時間5分」では時間が不足、実績値として約35分かかった。次回は、「日本語発表10分+通訳15分+質疑5分+移行時間5分」を検討する。又Power Pointでの発表は、自国語+英語にすることで、通訳がない場合でも相当理解出来る。この結果から発表条件として「自国語+英語」表記を検討する。

実行委員会は、今回の実績に基づき、今回の国際会議開催後、理事会に概要報告として検討をお願いしました。最後になりましたが、今回の第10回国際会議は、江藤元大、白井靖幸両先生の献身的なこれまでの国際会議開催の努力に負うところ大であり、加えて下間頼一先生のお力添えで開催が実現しました。今回の国際会議実現のために、大変にご苦勞、ご負担をおかけしました方々に、心より感謝申し上げます。その様なこともあり、実行委員会では開会式の記録ビデオと論文集をDVD、CD-ROMに焼き込み、参加者、関係者にご協力の御礼としてお届けいたしました。



【関西支部総会案内】

関西支部の行事案内

関西支部 2017 年度総会・研究発表講演会の研究発表を募集します。

- ◆開催日時:2018年3月4日(日)9:30-17:30
- ◆開催場所:大阪産業大学梅田サテライトキャンパス(大阪駅前第3ビル19階レクチャールームA)
- ◆研究発表講演の申込方法:全国大会研究発表講演申込要領にしたがってお申し込みください。申込用紙ダウンロード
URL:<http://jseht.world.coocan.jp/index.htm>
- ◆発表申込締切:2018年1月9日(火)17時必着
- ◆発表原稿提出期限:2018年2月6日(火)17時必着
- ◆申込先:〒690-0861 島根県松江市法吉町614-10 渡部 紘一(関西支部長)

TEL:0852-22-7471 Email:wata-ko@juno.ocn.ne.jp
 ※会場の使用時間の制約のため、申込みが多いときは受付先着順または発表時間20分を15分に短縮することがあります。※見学会は2018年3月3日(土)に大山崎(京都)サントリー工場とアサヒビール美術館(まっさんとモネの世界)の見学を予定しています。概要はニューズレター第113号でお知らせします。

【お詫びと訂正】

日本技術史教育学会ニューズレター111号(2017年7月発行)日本技術史教育学会誌第19巻第1号(2017年9月発行)の「2017年度総会・研究発表講演会報告」記事、並びに巻頭言と編集後記において誤りがありました。ここに謹んでお詫び申し上げますと共に、下記のように訂正いたします。学会誌編集委員会

ニューズレター第111号1ページ右段下から12行目 (誤) 幅と輔の変遷 → (正) 輻と輔の変遷
日本技術史教育学会誌 第19巻 第1号 1ページ左段上から1行目、2行目 (誤) 前田 清 → (正) 前田 清志
55ページ右段上から11行目 (誤) 幅と輔の変遷 → (正) 輻と輔の変遷
71ページ左段下から5行目 (誤) 前田 清 → (正) 前田 清志

【新入会員紹介】

□ ADIYASUREN ERDENE(足工大)、出井 努(足工大) 個人情報につき、氏名・所属のみ掲載(敬称略)

【 訃 報 】

都築正之氏(愛媛大学名誉教授)が8月21日に永眠なされました。本学会においても創立時よりご活躍なされておりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

【 書 籍 紹 介 】

□ 独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所、『世界遺産用語集(改訂版)』, オフィスHANS, 1500円(税別), URL:<http://www.hans5.com>

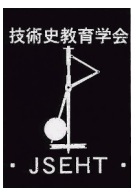
【 理 事 会 議 事 録 】

- ◆第147回(通算190回)理事会
日時:2017年7月29日(土),15:00~18:00,場所:東京大学工学部6号館175教室,出席者:牛山・堤・武長・田中(明)・山館
議題0) 前回(第146回)議事録承認, 1) 各部門報告<総務(会員動向, 会費納入状況と会費未納者宛て催促文書発送, 学会HP更新, 編集(ニューズレター第111号編集案, 学会誌編集進捗状況), 企画(2017年度総会に関して, 2)2017年次関西支部総会に関して, 3)「日中機械設計・機械技術史国際会議2017」開催経過報告, 4)学会財政支援策, 5)その他,6)次回理事会:2017年9月予定
- ◆第148回(通算191回)理事会
日時:2017年9月23日(土),15:00~17:30,場所:東京大学工学部6号館175教室,出席者:牛山・堤・吉田・武長・田中(明)・鈴木・桑原・山館
議題0) 前回(第147回)議事録承認, 1) 各部門報告<総務(会員動向, 会費納入状況と会費未納者宛て催促文書発送, 学会HP更新, 編集(ニューズレター第112号編集進捗状況報告書, 学会誌編集進捗状況), 企画(2017年度全国大会の向けて, 2) 関西支部総会に関して, 3)「日中機械設計・機械技術史国際会議2017」開催報告, 4)学会財政支援策, 5)その他,6)次回理事会:2017年12月予定

【 編 集 後 記 】

今年度の全国大会はご案内の通り盛岡市で開催いたします。会場は登録有形文化財に認定されている岩手県公会堂になります。是非ご参加ください。(穂積洋一)

日本技術史教育学会ニューズレター 第112号
2017年10月25日 印刷
2017年10月31日 発行



技 術 史 教 育

Education for History of Technology

発行者
編集

日本技術史教育学会 会長 牛山 泉
日本技術史教育学会
(株) プラス・ワン気付 日本技術史教育学会 事務局
〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-5 小安ビル6F
TEL/FAX: 03-3835-2494
E-Mail: jseht@nifty.com